

ケース 6.1 シンガポールの家事労働者

シンガポールは、東南アジアのなかでももっとも経済的にダイナミックに発展している国のひとつである。シンガポールの経済発展を支えたのは移民労働者であり、その多くは一時滞在者として入国を許可された人々で、その労働条件は厳しいものであった。このシンガポールの労働市場政策には、外国人女性家事労働者の雇用という側面が含まれていた。

シンガポール政府は、1978年に外国人家事労働者計画を導入したが、それはシンガポール女性国民のフォーマル経済への参加を促進するためのものであった。その計画では、移民労働者は2年の期限付きヴィザのもとで、かつ厳しい制限のなかで働くことになっていた。雇用者は毎月の雇用税（2005年では月額179米ドル）の支払いを求められると同時に、帰国を確実にするための保証金（2005年では2,953米ドル）を支払うことになっていた。外国人家事労働者は入国の際と、入国後は半年ごとに健康診断を受けなければならなかった。性病を患ったり妊娠した場合には強制出国させられることになっていた。シンガポール人との結婚や、永住は認められなかった。家事労働者は労働法や社会保障法の対象外として扱われほとんどの権利は認められなかった（Abdul Rahman et al., 2005: 238-9）。雇用者は外国人家事労働者の労災保険料を負担しなければならなかった。それは、家事労働者が政府労災保障制度の枠外に位置付けられていたからである（Yeoh, 2007）。

家事労働者は孤立しがちであり、若い女性移民労働者の場合、立場は弱く、雇用主のさまざまな要求に対して身を保護するものはほとんどなかった（Lim and Oishi, 1996）。外国人家事労働者問題がシンガポールの大問題として公的に論じられるようになったのは、家事労働者への雇用者による虐待問題が引き金となったと同時に、外国人家事労働者への否定的なステレオタイプの蔓延が問題視されたからでもある。フィリピン人家事労働者は、勤勉で、有能で英語をうまく話す良い労働者とみなされているが、しかし、時には信頼できないくせに要求だけは多い連中ともみなされている。インドネシア人とスリランカ人は、フィリピン人ほど有能ではないが、その分要求は少ないとみなされていたのである（Abdul Rahman et al., 2005: 243）。

1996年に、フィリピン政府はシンガポールで起きたフローラ・コンテンプラシオン事件（ケース 6.4 参照）の後に、シンガポールへの家事労働者の移民を一時的に禁止した。そのため、民間労働者斡旋業者は、労働者を求めてインドネシアとスリランカに注目するようになった。その結果、フィリピン政府が家事労働者の移民禁止措置を停止した後も、家事労働者を他国より調達する動きは続いたのである。供給過剰気味のインドネシアからの女性労働者は、雇用者にとり低賃金で働かせることができた上に、斡旋業者には斡旋料を高く設定できたので重宝がられた。2004年には14万人ほどの家事労働者が働いており、そのうち7万人がフィリピン人であり、1万2,000人がスリランカ人、そして6万人がインドネシア人であると見積もられていた（Abdul Rahman et al., 2005: 237）。

【参考文献】

- Abdul Rahman, N., Yeoh, B. S. A. and Huang, S. (2005) 'Dignity overdue': transnational domestic workers in Singapore' in Huang, S., Yeoh, B. S. A. and Abdul Rahman, N (eds.) *Asian Women as Transnational Domestic Workers*, (Singapore: Marshall Cavendish Academic).
- Lim, L. L. and Oishi, N. (1996) 'International labor migration of Asian women: distinctive characteristics and policy concerns', *Asian and Pacific Migration Journal*, vol. 5: no. 1, 85-116.
- Yeoh, B. S. A. (2007) *Singapore: Hungry for Foreign Workers at All Skill Levels*. (Washington DC: Migration Information Source) <http://www.migrationinformation.org/Profiles/display.cfm?id=570>, accessed 19 July, 2007.